

学校体育経営の問題点についての一考察

— 学校体育実態調査（中学校）から —

織 奥 信 男

I はじめに

生徒の日常生活は、一般的に、学校内と学校外の生活に大別される。江尻，宇土共著，学校体育経営管理に於て，運動生活の場とその内容について図示略述している。（P62）

表 1

学 校 内	教 科		体育の授業
	教 科	特別教育	クラブ活動
			学級活動
		外	学校行事等
	生徒会活動		
	非組織的活動		運動会
保健体育的行事		夏季施設	
学 校 外	非組織的活動	個人的思いつきなどの運動	
		家庭での運動	
学 校 外	非組織的活動	個人的運動	
		社会の組織による運動など	

学校体育は、生徒の日常に於ける運動や、運動生活を体育的に指導、管理して、生徒の身体的発達や精神的発達、あるいは、社会的発達などを助け、健全な社会人を育成するという体育の目標を実現しようとしている。従って、その経営管理についても、教科、教科外両面より、それぞれの学校の特性を生かしながら方針をたてねばならない。この小論に於ては、そのうちの教科体育について視点をあわせていくものである。

II 研究目的

中学校に於ける保健体育科は、基本的には学校教育制度によるもので、法的な強制力を持

ち、生徒全員に必修させる「体育の場」である。（学校教育法施行規則53条）

従って運動を拒否しようとする階層のものである。こゝでは運動をしないわけにはいかない。又学習内容や、学習時間、指導者の資質等についても、法的に基準化されていて、その運営は一定の基準によらなければならない。これは教科外体育や社会体育の面から見た場合、体育の場としては最も条件の整えられたものである。このような体育の場を持つことは、学校体育の特色の一つである。

一般に教科体育は、学校体育の中の重要な一つの領域であり、その学習は生徒の運動生活の全領域の中で、基礎的、中心的なもので、その成果は、他のすべての領域に発展させねばならない。しかし、この教科体育が、このような性格をもっているにもかかわらず、実際には、仲々満足される姿として指導されていないのではないか。どこの学校でも、教科体育に於て、どのような目標をめざし、どれだけの時間をかけ、どのような学習内容を学習させるかは、学習指導要領に基準をおいていよう。しかし実際には、学校経営の最高経営管理者である校長の能力差、体育経営については、体育主任の能力差、施設用具、生徒数などの関係で、実施にあたってはいろいろ問題が起きているであろう。現在文部省では教育課程審議会を設けて、小学校、中学校の教育について改訂を行なおうとしている。体育についても、体力づくり云々…というようなことも関連して、現在の時間配当ではきわめて不十分である、ともいわれている。しかし、こゝでは、現在の学習指導要領を基準

にして、どの程度実施されているか、実施についての問題点を、この際学習指導要領自体の問題点にはふれず、指導の実態より、学校長、体育教師がよりよい学習指導を展開するにあたって、少しでも参考になればと資料を整理したものである。

Ⅲ 研究方法とその観点

1 対象校

文部省昭和39年度学校体育実態調査票による。

- 学校規模 ア 生徒数 300人迄
187校
- 学校規模 イ 301人～900人迄
364校
- 学校規模 ウ 900人以上
210校

2 研究の観点

学校規模別に、学習指導要領（中学校保健体育編）を基準にして、

- (1) 領域別に見た指導時数は基準にくらべて確保されているか。
- (2) 各領域の指導に必要と思われる、用具の条件はどのように保有されているか。
- (3) 指導時数の確保を困難にしている条件（直接的な理由さきされているもの）には、どんなことが、どの程度に指摘されているか。

以上、調査用紙の項目に従って上記観点より整理したものである。（昭和40年9月文部省報告済）

表2、3を基にして、各領域とも、学年別、性別に低い方の割合をもって、基準以上、基準以上を判定した。

表 2 判定の基準。最低授業時数

分野	1 年	2 年	3 年
体 育	135単位時間	70単位時間	70単位時間
保 健		35単位時間	35単位時間
計	105単位時間	105単位時間	105単位時間

。体育の分野の年間最低授業時数に対する各領域の授業時数の割合

表 3

領 域	性 別	男	女
徒 手		5～10%	5～10%
器 械		15～20%	10～15%
陸 上		15～20%	10～15%
格 技		5～10%	—
球 技		30～40%	25～35%
水 泳		5～10%	5～10%
ダ ン ス		—	20～25%
知 識		5～15%	5～15%

Ⅲ 結果とその考察

表 4 1-a 指導時数(領域別、学年別に見た基源との関係)

領域	性別	学年	学校規模 ア (187校)		イ (364校)		ウ (210校)	
			基準以下校数	%	基準以下校数	%	基準以下校数	%
徒手	男	1	9	4.8	8	2.2	6	2.9
		2	12	6.4	14	3.8	14	6.7
		3	18	9.6	21	5.8	12	5.7
器械	女	1	10	5.4	10	2.8	9	4.3
		2	11	5.9	19	5.2	16	7.6
		3	13	7.0	21	5.8	19	9.1
陸上	男	1	43	23.0	75	20.7	44	20.1
		2	53	28.4	128	35.3	66	31.4
		3	57	30.4	113	31.2	77	36.6
球技	女	1	33	18.0	36	9.9	15	7.2
		2	40	21.4	57	15.6	28	13.3
		3	45	24.1	58	15.9	34	16.2
水泳	男	1	34	18.1	48	13.2	27	12.8
		2	45	24.1	72	19.8	40	19.0
		3	49	26.2	101	27.9	50	23.8
格闘技	女	1	22	11.8	23	6.3	14	6.7
		2	29	11.5	31	8.5	16	7.6
		3	31	16.6	38	12.2	26	12.4
ダンス	男	1	33	18.0	31	8.5	18	8.6
		2	45	24.1	50	13.8	27	12.8
		3	47	25.2	50	13.8	23	10.9
理論	女	1	32	17.1	26	7.1	23	10.9
		2	36	19.3	61	16.8	35	16.8
		3	41	21.9	55	15.1	33	14.9
水泳	男	1	120	64.1	195	53.8	109	52.0
		2	122	65.1	158	43.5	118	56.1
		3	124	66.2	193	53.1	116	55.1
格闘技	女	1	77	41.2	113	31.2	62	29.5
		2	71	37.9	109	30.0	68	32.4
		3	82	43.9	112	30.9	69	32.9
ダンス	女	1	103	55.0	140	38.5	73	34.7
		2	98	52.3	121	33.4	55	26.2
		3	98	52.3	122	33.6	52	24.7
理論	男	1	1	0.5	3	0.8	0	
		2	1	0.5	3	0.8	0	
		3	1	0.5	3	0.8	0	

表 5 1-b 指導時数 (学校別・領域別)

基準に達して いない領域	ア 187校		イ 374校		ウ 210校		
	校	%	校	%	校	%	
1 水 泳	122	65.1	188	50.2	109	52.0	
2 格 技	75	40.1	109	29.2	69	32.9	
3 ダ ン ス	98	50.3	118	31.6	53	25.2	
4 器 械	男	51	27.2	103	27.6	57	27.1
	女	37	19.8	43	11.5	15	7.2
5 陸 上	男	41	21.9	66	17.6	31	14.8
	女	28	15.0	27	7.2	9	4.3
6 水泳・格技	51	27.2	66	17.6	41	19.5	
7 水泳・格技 ダンス	34	18.1	28	7.5	19	9.1	
8 器械・陸上	21	11.2	28	7.5	10	4.8	
9 器・陸・水 ・格・ダ	9	4.8	10	2.7	6	2.9	

。註 男女合併のもの% 男女別のもの%以上基準に達していないものである。

表 6 1-c 指導時数 (全体的にみた基準との関係)

学校規模 段 階	ア 187校		イ 374校		ウ 210校	
	校数	%	校数	%	校数	%
A	7	3.7	22	6.8	19	9.1
B	88	47.1	221	58.0	116	55.2
C	74	39.5	121	33.2	71	33.8
D	18	9.7	10	2.8	4	1.9

評定のための階段

	内 容
A	全領域、学年、男女すべて基準に達しているもの。
B	全領域、学年、男女のうちほとんど (29~36%) 基準に達しているもの。
C	全領域、学年、男女のうち半数近く (8~17%) 基準に達しているもの。
D	全領域、学年、男女のうち半数以上 (18~36%) 基準に達していないもの。

2 施設 (プール)

表 7

規模	項目 段階	プールなし		規格~25m		規格50m	
		校	%	校	%	校	%
ア	A	7	100	0		0	
	B	78	88.7	10	11.3	0	
	C	69	93.3	5	6.7	0	
	D	17	94.5	1	5.5	0	
イ	A	14	63.8	7	31.7	1	4.5
	B	191	86.5	29	13.1	1	0.4
	C	108	89.2	13	10.8	0	
	D	9	90.0	1	10.0	0	
ウ	A	10	52.6	9	47.4	0	
	B	73	63.0	42	36.2	1	0.8
	C	45	63.4	25	35.2	1	1.4
	D	2	50.0	2	50.0	0	

学校体育経営の問題点についての一考察

表 8 3 - a 用具

学校規模	種類	段階	数 量							
			a (0)	%	b (1~3) %	c (4~6) %	d (7~) %			
ア	高鉄	A	1	14.3	4	57.1	2	28.6	0	
		B	8	9.0	58	66.0	22	25.0	0	
		C	16	21.8	49	66.0	8	10.9	1	1.3
		D	4	22.3	11	61.1	3	16.6	0	
	低鉄	A	0		5	71.4	2	28.6	0	
		B	14	15.9	32	36.4	29	33.0	13	14.7
		C	17	23.0	28	37.8	25	33.8	4	5.4
		D	8	44.5	5	27.8	3	16.6	2	11.1
イ	高鉄	A	1	4.5	14	63.8	6	27.2	1	4.5
		B	8	3.6	109	48.7	87	39.5	17	7.7
		C	9	7.4	62	51.2	42	34.8	8	6.6
		D	3	30.0	4	40.0	2	20.0	1	10.0
	低鉄	A	1	4.5	4	18.2	7	31.8	10	45.5
		B	35	15.8	31	14.1	74	33.5	81	36.6
		C	21	17.4	15	12.4	43	35.5	42	34.7
		D	4	40.0	1	10.0	3	30.0	2	20.0
ウ	高鉄	A	3	15.8	6	31.5	10	52.7	0	
		B	3	2.6	30	25.9	62	53.4	21	18.1
		C	2	2.8	25	35.2	37	52.1	7	9.9
		D	0		2	50.0	1	25.0	1	25.0
	低鉄	A	0		2	10.5	8	42.1	9	47.4
		B	2	1.7	8	6.9	25	21.5	81	69.9
		C	6	8.4	5	7.1	24	33.8	36	50.7
		D	0		1	25.0	1	25.0	2	50.0

高鉄……高鉄棒

低鉄……低鉄棒

用具名	学校規模	段階	数 量							
			a (0)	%	b (1~3) %	c (4~6) %	d (7~) %			
とび箱	ア	A	0		4	57.1	3	42.9	0	
		B	0		73	83.0	15	17.0	0	
		C	6	8.0	62	84.0	6	8.0	0	
		D	0		16	89.0	2	11.0	0	
マッ	イ	A	0		5	22.7	16	72.8	1	4.5
		B	1	0.4	89	40.2	121	55.0	10	4.4
		C	0		54	44.6	64	52.9	3	2.4
		D	1	10.0	3	30.0	5	50.0	1	10.0
ト	ウ	A	0		2	10.5	16	84.3	1	5.2
		B	1	0.8	14	12.1	77	66.5	24	20.6
		C	0		7	9.9	48	67.6	16	22.5
		D	0		0		3	75.0	1	25.0
マッ	ア	A	0		3	42.9	4	57.1	0	
		B	0		36	41.0	46	52.2	6	6.8
		C	3	4.5	43	58.0	27	36.2	1	1.3
		D	1	5.5	9	50.0	8	44.5	0	
ト	イ	A	0		2	9.1	11	50.0	9	40.9
		B	1	0.4	29	13.1	130	59.0	61	27.5
		C	0		20	16.5	63	52.0	38	31.5
		D	1	10.0	2	20.0	4	40.0	3	30.0
ト	ウ	A	0		1	5.2	8	42.0	10	52.8
		B	0		5	4.3	42	36.2	69	59.5
		C	0		3	4.2	30	42.3	38	53.5
		D	0		0		1	25.0	3	75.0

織 奥 信 男

用具名	学校規模	段階	数				量			
			a (0)	%	b (1~3)	%	c (4~6)	%	d (7~)	%
砲	ア	A	0		6	85.7	1	14.3	0	
		B	2	2.2	65	74.0	19	21.6	2	2.2
		C	4	5.4	58	78.4	11	14.9	1	1.3
		D	0		14	77.7	4	22.3	0	
丸	イ	A	0		7	31.8	10	45.5	5	22.7
		B	1	0.4	94	42.6	96	43.5	30	13.5
		C	1	0.8	51	42.1	50	41.4	19	15.7
		D	1	10.0	5	50.0	4	40.0	0	
ウ	ウ	A	0		4	21.1	9	47.4	6	31.5
		B	1	0.8	32	27.6	54	46.6	29	25.0
		C	0		28	39.4	32	45.1	11	15.5
		D	0		2	50.0	1	25.0	1	25.0

用具名	学校規模	段階	数				量			
			a (0)	%	b (1)	%	c (2)	%	d (3~)	%
高	ア	A	0		5	71.4	2	28.6	0	
		B	3	3.4	74	84.1	11	12.5	0	
		C	9	12.2	63	85.2	1	1.3	1	1.3
		D	5	27.8	13	72.2	0		0	
跳	イ	A	1	4.5	12	54.4	8	36.6	1	4.5
		B	2	0.9	124	56.3	88	39.6	7	3.2
		C	1	0.8	91	78.2	25	20.7	4	3.3
		D	0		6	60.0	4	40.0	0	
支	ウ	A	0		6	31.5	12	63.3	1	5.2
		B	1	0.8	33	28.5	68	58.6	14	12.1
		C	2	2.8	23	32.5	33	46.5	13	18.2
		D	0		1	25.0	2	50.0	1	25.0
柱	ウ	A	0		6	31.5	12	63.3	1	5.2
		B	1	0.8	33	28.5	68	58.6	14	12.1
		C	2	2.8	23	32.5	33	46.5	13	18.2
		D	0		1	25.0	2	50.0	1	25.0

用具名	学校規模	段階	数				量					
			a (0)	%	b (1~3)	%	c (4~9)	%	d (10~15)	%	e (16~)	%
ハ	ア	A	1	14.3	0		2	28.6	3	42.9	1	14.3
		B	26	29.5	5	5.7	42	47.8	9	10.2	6	6.8
		C	37	50.1	9	12.2	22	29.7	5	6.7	1	1.3
		D	15	83.4	2	11.1	1	5.5	0		0	
ド	イ	A	0		3	13.6	4	18.2	10	45.5	5	22.7
		B	22	9.9	8	3.6	87	39.5	61	27.5	43	19.5
		C	11	9.1	8	6.6	58	48.0	18	14.9	26	21.4
		D	1	10.0	1	10.0	7	70.0	0		1	10.0
ル	ウ	A	0		2	10.5	8	42.1	3	15.8	6	31.5
		B	3	2.6	0		31	26.7	37	31.9	45	38.8
		C	3	4.2	4	5.6	20	28.2	21	29.5	23	32.5
		D	1	25.0	0		1	25.0	1	25.0	1	25.0

用具名	学校規模	段階	数				量					
			a (0)	%	b (1~5)	%	c (6~10)	%	d (11~25)	%	e (25~)	%
バ	ア	A	0		1	14.3	1	14.3	3	42.9	2	28.6
		B	0		8	9.0	28	31.9	42	47.8	10	11.3
		C	4	5.4	18	24.3	19	25.7	29	39.2	4	5.4
		D	1	5.5	7	38.9	6	33.3	4	22.3	0	
レ	イ	A	1	4.5	1	4.5	0		13	59.3	7	31.7
		B	7	3.1	8	3.6	27	12.2	113	51.2	66	29.9
		C	2	1.6	3	2.5	22	18.1	59	48.8	35	29.0
		D	0		1	10.0	1	10.0	5	50.0	3	30.0
ー	ウ	A	0		0		2	10.5	11	58.0	6	31.5
		B	1	0.8	0		8	6.9	45	38.8	62	53.3
		C	0		0		1	1.4	32	45.1	38	53.5
		D	0		0		1	25.0	2	50.0	1	25.0
ポ	ール	A	0		0		2	10.5	11	58.0	6	31.5
		B	1	0.8	0		8	6.9	45	38.8	62	53.3
		C	0		0		1	1.4	32	45.1	38	53.5
		D	0		0		1	25.0	2	50.0	1	25.0

学校体育経営の問題点についての一考察

用具名	学規 校模	段 階	数			量		
			a (0) %	b (1~5) %	c (6~10) %	d (11~25) %	e (26~) %	
サッカーボール	ア	A	0	4	3	0	0	0
		B	14 15.9	55 57.1	16 42.9	3 3.4	0	
		C	20 27.0	48 62.6	6 8.0	0	0	
		D	10 55.9	7 38.9	1 5.5	0	0	
	イ	A	2	5	10	5	0	
		B	14 9.1	82 22.7	98 45.5	27 22.7	0	
		C	14 6.3	51 42.2	42 34.6	14 11.6	0	
		D	0 11.6	5 50.0	4 40.4	1 10.0	0	
	ウ	A	1	4	6	5	3	
		B	4 5.2	18 21.1	54 31.5	34 26.4	6 15.8	
		C	0 3.4	21 29.5	27 38.1	19 29.3	4 5.2	
		D	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 26.8	0 5.6	
バスケットボール	ア	A	0	3	3	1	0	
		B	6 6.8	30 42.9	42 47.8	9 14.3	1 1.1	
		C	5 6.7	45 61.0	19 25.6	5 6.7	0	
		D	4 22.3	12 66.6	2 11.1	0	0	
	イ	A	1	1	8	11	1	
		B	6 4.5	34 4.5	84 36.5	84 50.0	13 4.5	
		C	2 2.7	18 15.4	51 38.0	47 38.0	3 2.4	
		D	0 1.6	2 20.0	6 60.0	2 20.0	0	
	ウ	A	0	0	6	10	3	
		B	3 2.6	2 1.7	23 31.5	66 52.7	22 15.8	
		C	1 1.4	2 2.8	14 19.8	44 57.0	10 18.9	
		D	0	1 25.0	0 19.7	2 62.0	1 14.1	

用具名	学校 規模	段 階	数			量		
			a (0) %	b (1~5) %	c (6~10) %	d (11~25) %	e (26~) %	
柔道 衣	ア	A	5	2	0	0	0	
		B	70 71.4	7 28.6	5 5.7	5 5.7	1 1.1	
		C	55 79.6	8 7.9	5 6.7	4 5.4	2 2.7	
		D	16 74.3	1 5.5	0	1 5.5	0	
	イ	A	7	5	4	6	0	
		B	126 31.8	21 22.7	24 18.2	41 27.3	9 4.6	
		C	70 57.0	17 9.5	13 10.8	18 18.6	3 2.4	
		D	5 57.9	3 14.0	1 10.0	0 14.9	1 10.0	
	ウ	A	3	5	3	6	2	
		B	56 15.8	15 26.4	19 15.8	20 31.5	6 10.5	
		C	39 48.2	13 12.9	14 16.4	4 17.3	6 5.2	
		D	2 55.0	0 18.3	0 19.7	2 5.6	1 1.4	
剣道 防具	ア	A	5	0	1	1	0	
		B	61 71.4	8 9.1	11 14.3	8 9.1	0	
		C	51 69.3	10 13.5	7 9.4	6 8.0	0	
		D	14 77.9	1 5.5	2 11.1	1 5.5	0	
	イ	A	7	2	7	4	2	
		B	98 31.8	9 9.1	53 31.8	40 18.2	8 9.1	
		C	63 44.5	22 9.9	21 24.0	16 18.0	3 3.6	
		D	2 52.1	5 17.3	1 17.3	2 13.3	0	
	ウ	A	4	3	6	6	0	
		B	38 21.2	14 15.8	26 31.5	30 25.9	8 6.9	
		C	34 32.7	8 12.1	8 22.4	19 26.8	2 2.8	
		D	2 48.0	0 11.2	1 11.2	0 26.8	1 25.0	

織 奥 信 男

用具名	学校 規模	段 階	数			量						
			a (0)	%	b (1~5)	%	c (6~10)	%	d (11~25)	%	e (26~)	%
ま	ア	A	4	57.1	0		3	42.9	0		0	
		B	62	70.5	7	7.9	14	15.9	5	5.7	0	
		C	49	66.0	6	8.0	15	20.2	3	4.5	1	1.3
		D	12	66.8	2	11.1	1	5.5	3	16.6	0	
わ	イ	A	12	54.4	0		8	36.5	2	9.1	0	
		B	124	56.1	13	5.9	51	23.0	26	11.8	7	3.2
		C	71	58.8	10	8.2	17	14.1	22	18.1	1	0.8
		D	5	50.0	1	10.0	2	20.0	2	20.0	0	
し	ウ	A	6	31.5	4	21.2	2	10.5	6	31.5	1	5.2
		B	60	51.8	6	5.2	23	19.8	22	18.9	5	4.3
		C	39	55.0	2	2.8	13	18.3	12	16.9	5	7.0
		D	3	75.0	0		1	25.0	0		0	

用具名	学校 規模	段 階	数			量				
			a (0)	%	b (1)	%	c (2~3)	%	d (4~)	%
電	ア	A	1	14.3	5	71.4	1	14.3	0	
		B	32	36.4	45	51.1	11	12.5	0	
		C	31	41.9	30	40.5	13	17.6	0	
		D	6	33.4	9	50.0	3	16.6	0	
蓄	イ	A	3	13.4	13	59.3	6	27.3	0	1.2
		B	57	25.8	128	58.0	33	15.0	3	0.8
		C	23	19.0	75	52.0	22	18.2	1	
		D	1	10.0	7	70.0	2	20.0	0	
大	ウ	A	3	15.8	9	47.4	7	36.8	0	
		B	16	13.8	54	46.6	43	37.0	3	2.6
		C	9	12.6	36	50.7	23	32.5	3	4.2
		D	1	25.0	1	25.0	1	25.0	1	25.0
鼓	ア	A	5	71.4	2	28.6	0		0	
		B	67	76.1	18	20.5	3	3.4	0	
		C	60	81.1	11	14.9	2	2.7	1	1.3
		D	11	61.1	4	22.3	2	11.1	1	5.5
蓄	イ	A	10	45.5	8	36.6	1	4.5	3	13.4
		B	133	60.2	65	29.4	19	8.6	4	1.8
		C	83	68.7	28	23.1	9	7.4	1	0.8
		D	3	30.0	6	60.0	1	10.0	0	
大	ウ	A	7	36.8	6	31.5	3	15.8	3	15.8
		B	63	54.3	22	18.9	25	21.5	6	5.2
		C	35	49.3	14	19.7	19	26.8	3	4.2
		D	3	75.0	1	25.0	0		0	

学校体育経営の問題点についての一考察

表 9 3-b 用具 3-aの図式化

領域	種目	学校規模					用具保有段階											
		ア 187 校					イ 364 校					ウ 210 校						
		a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e		
器械	高鉄棒		○					◎	◎								○	
	低鉄棒		◎	○					○	○							○	
	跳箱		○					○	◎					◎		○		
	マット		◎	○					◎	○					○	◎		
陸上	砲丸		○					○	○				○	◎	○			
	高跳用支柱		○					◎	○				○	◎	○			
	ハードル	◎		○					◎	○	○			○	○		◎	
球技	バレーボール			○	◎					◎	○					○	◎	
	サッカーボール			○				○	◎					○				
	バスケットボール		◎	○						○	○			○	◎	○		
格技	柔道衣	○					○					○	・	・	・			
	剣道防具	○					○		○			○	・	・	・			
	まわし	○					○		○			○	・	・	・			

。用具保有段階凡例

	a	b	c	d	適要	a	b	c	d	e	適要
数	0	1~3	4~6	7以上	器械・砲丸	0	1~3	4~9	10~15	16以上	ハードル
数	0	1	2	3以上	高跳用支柱	0	1~5	6~10	11~25	26以上	球格 球技

- 。記号凡例 ◎……二段階に広がっているがそのうちでも最も多い
 ○……最も多い
 ◎……二段階に広がっているがそのうちでやや多い
 ・……あることはあるが徴かである

表 10 学 校 規 模 ア

領域		基準からみた段階																			
		A					B					C					D				
		用具保有量					用具保有量					用具保有量					用具保有量				
用具名		a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
器 械	高 鉄 棒		○					○					○					○			
	低 鉄 棒		○					○	○				○	○				○			
	と び 箱		◎	○				○	◎				○	○				◎	○		
陸 上	砲 丸		○					○					○					○			
	高 跳 用		○	•				○					○					○			
	ハ ー ド			•	○				○				○	•				○			
球 技	バレーボール				○	•		○	◎				○	○	○			◎	○	○	
	サッカーボール		○	•				○					○					○	•		
	バスケットボール		○	○				○	◎				○					○			
格 技	柔 道 衣	○					○					○					○				
	剣 道 防	○					○					○					○				
	ま わ し	◎		○			○					○					○				

表 11 学 校 規 模 イ

領域		基準からみた段階																			
		A					B					C					D				
		用具保有量					用具保有量					用具保有量					用具保有量				
用具名		a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
器 械	高 鉄 棒		○					◎	○				◎	○				○	◎		
	低 鉄 棒		○		◎			○	○	◎			○	◎	○			◎	○	◎	
	と び 箱		○	◎				○	◎	•			○	◎	○			○	◎	○	
陸 上	砲 丸		○	◎				○	○				○	○				◎	○		
	支 柱		◎	○				◎	○				◎	○				◎	○		
	ハ ー ド			◎	○				◎	○				◎	○	○			◎	○	
球 技	バレーボール				◎	○				◎	○				○	•				○	•
	サッカーボール		○	◎	○			○	◎				◎	○				◎	○		
	バスケットボール			○	◎				○	○				◎	○				◎	•	
格 技	柔 道 衣	◎	○		○		○	•	•	•		○	•	•	•		◎	○			
	剣 道 防	○		○			○		•			○					○	○			
	ま わ し	◎		○			◎		○			○		•	•		○		•	•	

学校体育経営の問題点についての一考察

表 12 学校規模ウ

領域	基準からみた段階			A					B					C					D										
				a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e						
	用具保有量	用具名																											
器械	高低とマ	鉄鉄びッ	棒棒箱ト	•	○				•	○				•	○					○					○				
				○		○=○			○		○	●		○		○=○				○					○			○	
陸上	砲高ハ	跳用ド	丸支柱ル		○	○				○	○		●		○	○		○		○					•	○	•	•	
					○			○		○	○		○		○	○=○	○=○			•		•	•		•	•	•	•	
球技	バレーボール			◎	○					○	○	◎				○	◎	○			○					○		◎	○
	サッカーボール	○	◎	○					○	◎	○			○	◎	○			○	○		◎			○		◎		
	バスケットボール		○	◎	○					○	◎	○				○	◎	○			○					○		◎	
格技	柔道		○		◎		○			•	•		◎		•	•			○					○			○		
	剣道防具まし	○	•		○		◎			○	○		◎		○				○					○		•			

4 指導時数を困難にしている原因

表 13

項目	学校規模			イ			ウ			
	回答頻数 (校)	%	頻数/187	回答頻数 (校)	%	頻数/374	回答頻数 (校)	%	頻数/210	
自然条件等	強風降雨	85	33.4	45.4	163	36.5	43.6	77	39.6	36.7
	積雪	43	16.8	23.0	43	9.6	11.5	22	11.4	10.4
	霜柱泥濘	47	18.4	25.2	88	19.7	23.6	33	17.0	15.7
	施設用具等の不備	66	25.9	35.3	128	28.6	34.4	53	27.3	25.2
	その他	14	5.5	7.5	25	5.6	6.7	9	4.7	4.3
臨時の行事	集会	60	20.3	32.1	135	20.4	36.1	80	18.4	38.1
	見学	41	13.8	21.9	104	15.8	27.9	76	17.5	36.2
	保体行事	86	29.2	46.0	182	27.7	48.8	117	27.0	55.8
	学力テスト	68	22.9	36.3	169	25.7	45.4	122	28.1	58.1
	その他	41	13.8	21.9	69	10.4	18.4	39	9.0	18.6

(1) 表4より

i) 領域別にみて、基準以下のものは次のようである。

① 水泳約50~60%, ダンス30~55%, 格技30~40%

② 器械, 陸上10~30%, 球技10~25%, 徒手理論は大体よく実施されている。

ii) 男女別にみると器械, 陸上に於て, 一般的に女子の方が基準以下の学校は少なくなっている。このことは, 時間数が, 男子より少なく, 比較的指導時数の確保がやさしいためと推察できる。

iii) 学校規模別にみると, 規模の大きい学校ほど, 基準以下の校数は少なくなっている。これは, 規模が大きくなるほど他教科との調整や, 指導にあたっては, 組織を強化し, それぞれの能力差をできるだけなくすように, 最高管理者である学校長, 体育主任と, 体育教師の連絡は密にして機能を十分発揮する等のことから規模の小さい学校との差があらわれる一つの要因になっているのではないか。

iv) 領域別の傾向についてみると

① 徒手については, 学校規模に関係なく学年が進むにつれて基準以下の学校が多くなっている。ア 男子3年9.6% ウ 女子3年9.1%が2年のものよりやゝ高い。

② 器械については前述 ii) の通りで, 学年別にみると, 学年が進むほど基準以下の学校は多くなっている。ウ 男子3年36.6%は最高を示している。

③ 陸上については, ②と同傾向である。

④ 球技については, 男子に於て学校規模差があらわれ, ア>イ>ウの傾向を示し, 特にアとイ, ウの差がみられる。

⑤ 格技については, 全体的に悪い。学校規模からみると, アとイ・ウの差がみられる。

⑥ 水泳についてみると, 全領域中, 一番悪い状態で, 学校規模差もアとイウとの間にみられる。

⑦ ダンスについては, 水泳と同様全般に悪い。学校規模による差ア>イ>ウの傾向がみられ

る。特にア1年55%は最高を示し, イウについても30~32%を示している。

⑧ 理論については, 一般によく実施されている。

(2)表5にみられるように, 全領域中より基準に達していないものを中心にして, 学校規模別にみると

i) アについては

水泳65.1> ダンス50.3> 格技40.1> 器男と水泳・格技27.2> 陸上男21.9> 器女19.8> 水泳・格技・ダンス18.1> 陸上女15.0> 器男女・陸男女11.2> 器男女・陸男女・水・格・ダ4.8, となり水泳・ダンスは50%以上が達していない。格技・器械・陸上も率はやゝ低いが15~30%弱のひらきで達していない。

(こゝでは水泳・格技等を水・格のように略す。以下同様。)

ii) イについては

水泳50.2> ダンス31.6> 格技29.2> 器男27.6> 陸男・水・格17.6> 器女11.5> 水・格・ダ・器・陸7.5> 陸女7.2> 器・陸・水・格ダ2.7

となり, アと大体同傾向にあるも, 全体の率はやゝ低くなっている。

iii) ウについては

水泳52.0> 格技32.9> 器男27.1> ダンス25.2> 水・格19.5> 陸男14.8> 水・格・ダ9.1> 器女7.2> 器・陸4.8> 陸女4.3> 器・陸・水・格・ダ2.9

となり水泳がアイと同傾向で52%と高い率を示している。又, アイと異なるところは, ダンスが格技・器械より低くなっていることである。

領域については, 水泳が52%と, アイウとも半数の学校は基準に達していないが, 行事として集中的に指導する機会が多いためと思われる。ダンスもア50.3%イ31.6%ウ25.2%と他の領域からみれば高い。

一般に単独にて基準以下は, 約15%以上は, 陸上, 器械, 格技, ダンス, 水泳と順に高くなっている。

(3) 表6より

i) 学校規模が大きくなるにつれて、基準に達している率は高くなっている。即ち、大体基準に達している学校(段階AB)

ア 56% イ 62% ウ 64.3% 又半数以上、基準に達していない学校(段階D)ア 9.6% イ 2.8% ウ 1.9%となっている。

ii) 段階ABCDについてみると

① Aについては ウ>イ>ア

② Bについては イ>ウ>ア

③ Cについては ア>ウ>イ

④ Dについては ア>イ>ウ

となっている。このことは、学校規模が大きいほど施設、用具の数が多くなっていること(1体育学級が学習する場合について)や、教師数、性別など、指導組織についてみても有利であることが推察できよう。

(4) 施設については、表4、表5で推測できるように、水泳の指導時数が、教科時大変少ない、ということより、プールの保有状況について集計した。表7はその結果である。保有率は全体に悪い。ウ35~50%イ10~31%ア5~10%と学校規模による差があらわれている。保有率は低いながらも、ウ>イ>アと規模が大きくなるほど保有率は高くなっている。プールの規格は大部分25mプールである。又プールを保有していないながらCDに属する学校もあるが、これは、夏季訓練として行事に組み入れて水泳を指導しているためと思われる。

(5) 用具については i) 表8~表12中9表の模式図により表8をみると、器械、陸上、球技、格技の各領域とも学校規模が大きくなるに従って保有量も多くなっている。これは当然であり、これよりも、保有段階からみた領域差の方が、表4、表5と関連して検討できよう。アイウとも格技関係の用具保有状況はよくない。器械、陸上と球技とを比較してみるとウを除いては、アイともや>球技の状況の方がよい。これは経済的な観点からその傾向は伺い知ることができるが、指導時数の基準以下の率が器械、陸上より球技の方が低いのも、生徒の興味・欲

求の問題とともに関連があるのではなからうか。

陸上の中でハードルについてみると、学校規模の差、即ちイウとアの間に相当差があらわれている。

球技については、アイウとも学校規模の差は、器械、陸上ほどあらわれていない。たゞアイウともバレーボール、サッカーボール、バスケットボールと種目の差があらわれ、経済的な面だけでなく、その種目の社会に於ける普及率と関係があるように思われる。即ち、バレーボール>バスケットボール、サッカーボール。

ダンスについては、電蓄保有が、アイとも90%近く1台という現状である。又、アイに於て、段階ABCDと保有量の関係については、傾向として、A>B>C>Dを示している。これもプール同様、用具の不足が指導時数基準以下の一要因になっていることを示していよう。

ii) 表10~12からみて

① 小規模校 ア に於ては、ABCDの間に、鉄棒については保有量の差はみられない。ハードルについてはAとBCDの間に差がみられる。球技については、や>Aの方がよい。格技についてはABCDの差はみられない。

② 中規模校 イ に於ては、鉄棒、とび箱、マットと器械の領域について、ABCD間に差はほとんどみられない。

陸上については、いくらかAの方がよい傾向を示している。球技についてABCDの差はいくらかでている。Aについてはd(11~25)にバレーボール、サッカー、バスケットボールとも属しているが、BCDについては、それぞれb, cに属している。格技についてはABCDの差はほとんどみられない。

③ 大規模校ウに於ては、器械については、イと同様、ABCDの差はあまりみられない。陸上については、ABとCDの間に若干の差がみられて、ABの方がや>よい。球技についてはDがABCと比較してや>悪い。

格技については、AとBCDの間に少し差がみられるが、特にBCDの保有率は悪い。

このようにみえてくると、A B C Dの間に、一部のものを除いては、用具の保有量について大きな開きはない。しかし現実には、基準以下の学校が相当数あり、その要因となっているものに、指導組織（教師の能力も関係）の機能の働きをあげることはできないだろうか。

(6) 指導時数の確保を困難にしている原因について表13から

i) 学校規模に関係なく、保体行事、学力テスト、強風、降雨、集会、施設用具の不備などが目立つ。特に保体行事については、それぞれの学校で、年度末に、その年度の指導計画と実施計画を反省、検討し、次年度の体育経営全般について、年間指導計画を作成するのが普通で、その中には学校行事、特に、保健体育関係については十分検討し、落しこぼしのないようにするのが常識であろう。しかるに、臨時の行事の項目で一番多い率を示しているのをみると、体育指導者自身にも反省する問題があるのではなかろうか。

ii) 学校規模別にみると、強風、降雨、施設用具の不備などのために減少している場合、ア>イ>ウの傾向を示している。特に、学力テストの影響が保健体育の方へ強くあることが伺える。

X 要 約

学校体育の経営管理の最高責任者は、学校長である。学校長は体育経営についても常に関心を払い、又、それが正しく教育的成果をあげるように、体育教師（特に体育主任）を指導助言しなければならないだろう。このような能力や態度は、学校長として当然であろう。しかし実際には、一般的にみて、学校長の体育経営に関する態度や能力は、相当な個人差がある。例えば、体育やスポーツに豊富な経験や知識をもって、体育主任の活動を援助、指導して、体育の成果を上げる学校長、反対に、体育の教育的役割りについて、ほとんど無知、又は無関心であって、体育主任や体育教師の活動を阻害するような場合、両者に於ける個人差は、体育の成果

を左右する基本条件の一つとなる。従って、現実的には、学校長は必ずしも体育の専門家ではない。むしろ、そのような人は少ないであろう。そこで、学校体育経営の上級管理者としての体育主任の立場が重要になってくる。体育主任は、それぞれの学校に於ける体育専門家の長であり、体育経営管理機構のリーダーである。即ち、体育に関する学校長の職務内容や責任は、実質的には、大部分、体育主任に委任されているとみるのが实际的であろう。このような観点から、教科体育の経営管理について、基本方針を決定するのは体育主任であろう。この場合、どのような点に配慮しなければならないか。二、三具体的なものについて述べると

i) 学習指導の目標を具体化しなければならない。即ち、学習指導要領に基づいて学年別に明らかにする。この場合、体育目標と学習指導の目標との関連をはからねばならない。こゝでは、当然学校の実情（生徒の実態、施設用具の条件等）に応じて、必要なものを明確にしなければならない。

ii) 学習指導要領に基づいて、学年に応ずる運動教材や、学習内容の決定を行ない、学年別の年間指導計画を作成しなければならない。年間指導計画は、その内容について、学習指導要領によってなされ、学年別、領域別に構成される。しかし、実際に展開する場合は、1単位時間の中で、どのような種目を組み合わせればよいか、学年に応じて種目、施設、用具、季節など関連して、それぞれ異なってくる。そのため、生徒の興味、欲求などと照らし合わせて、最も効果のあがる組み合わせを考えねばならない。従って、体育主任は、施設用具の条件、教師の特技に関するもの、生徒の条件についての考え方、又、校内大会、運動会などと、教科の学習との関係をどう考えるか、など方針を具体化しなければならない。

iii) 体育クラスをどのように編成するか。時間配当と時間割の方針の決定など、体育教師の人数、特技、性別、施設条件等考慮して構成しなければならない。

このようにみてくると、学校規模ア、イ、ウに於て、すべて施設、用具の条件は整備されているとはいえない。むしろ、今後大いに拡充整備の必要が強い。従って体育主任は、学校体育の基本方針を明確に打ち出し、他教科の教師にも十分理解されるように、努力しなければならない。この資料でもみられるように、施設用具の不足は明らかであるが、年間指導計画、時間割構成の工夫などによって、一時限に学習する体育学級数をコントロールしたり、施設用具の効果的利用について工夫しなければならない。特に計画時数と実施時数のずれが、領域によって差があることも、体育教師の教材研究不足、或は努力不足を物語っているのではなかろうか。又、体育授業時数の減少理由で、保健体育行事と学力テストが高率を示していることは、学校経営の立場からも、その年間指導計画の機能があまり発揮されていない事を示している。即ち保健体育行事は、年間指導計画作成の際、大部分組み入れられ、臨時の行事としては、できるだけ少なくすむように配慮しなければならない。このことは、年間指導計画自体、学校の実態との間に開きがあるのではないか。これ

は、学校長、体育主任がもっと真剣に学校体育経営に取りくまねばならない事を示していよう。

教科体育の経営について、学校長はもとより、それ以上にその直接指導にあたる体育教師の側に、現状の把握とその条件下に於ける効果的体育経営を行なうため、他教科の教師の理解を深めたり、教材研究等努力することが重要である。と同時に、望ましい体育学習が展開できるように、施設用具の充実にあたって、計画を立て、その実現にも努力することが重要であろう。

参 考 文 献

1. 海後宗臣高坂正顕監修 全国教育図書株式会社
S.41年6月 学校教育全書 13巻 体育
保健教育
2. 江尻容、宇土正彦共著 光生館 S.37年
学校体育の経済な理
3. 体育の科学 体育の科学社 1966.7. P 389
4. 海後宗臣相良性一他編 図土社 S.38年9月
学校経営大系 1巻 3巻 4巻